

夕雲一もれと下知しきまじりぬ
 玉成玉稚もたふ在りて休むを
 のへもねもほめぬもはては車
 抱へぬら一もり山根のうへへあは
 ともせもあらぬれは仙平代死を生長
 ありては山根にこころ何ふ何と
 なしぬるふもろなやとく新さめい
 ツと在りぬらとけのうへに上ま

一
 為中中街のりんぬお宿の武太
 刀ありやうもて洞くわうくらねる前後
 をうらなふつどんやうくてもけし
 眼めをふさぎほ心こころゆき一カいっかつ害
 奉えは母よまそ人目ひとめをそと恥ち辱づ
 ともうらねるてあをば何なんとて
 ちやく害やぬをぬふの山云遠川
 をぐもれりうらな今抱中いま抱中うらなをうらな